

令和3年5月14日（金）

19：00～20：40

プラザおおるり 第1多目的室

【出席者】

社会教育委員：田代廣保、青山朝美、八木博、熊谷紀男、鈴木美香、萩原淑恵、
松本敬人、西田正鋭

教育委員会社会教育課：濱田教育長、小林社会教育課長、
新聞課長補佐兼文化係長、杉本青少年係長、
伊藤課長補佐兼社会教育係長

【会議の内容】

1 開会（事務局：伊藤）

- ・任期交代後初回の会議であり、議長・副議長が選出されるまで伊藤が暫定司会を務める旨を説明した。
- ・配布資料の確認を行った。

2 委嘱状交付

- ・令和3年5月1日から新任期となったため、濱田教育長から名簿順にひとりずつ委嘱状を交付した。任期は令和5年4月30日までの2年間である。再任委員7人（2人欠席）と新任委員1人に交付した。

3 教育長あいさつ

- ・新しい任期よろしくお願ひします。
- ・今期は西田委員を新しく迎えた。初倉公民館長として活躍されるなど素晴らしい実績を残してくれた上で、今年度は福祉課主催の寺子屋事業に従事され、学校教育課のサタデーオープンスクールにも協力していただく。これからも様々な分野で活躍していただくが、いろいろな視点でご意見をいただけるのではと期待している。
- ・先日、5年間をかけて作成していただいた家庭教育に関わる提言書をいただいた。素晴らしい提言書をいただき、本当にありがたいと思っている。
- ・家庭教育の重要性はずっと言われてきたが、そこに踏み込むことは難しかった。現実がある家庭教育は他人が踏み込める場所ではない。教育委員会が諮問したときに、どこまで踏み込めるか、提言書を作っても実現性を担保するのは難しいのではと。でも大事なことから乗り越えなければと、皆さんにご議論いただいた。5年の長い間のご苦勞とご努力があったことに感謝申し上げるとともに、素晴らしい内容でした。
- ・子供達の発達段階に応じてステージ分けされ、きちっと書かれていること、子供達や保護者の側に立った対処法があり、コラムも興味深く読むことができた。文体が優しく保護者が読んでも心にすっと落ちて来るのではないかと思う。
- ・プライベートが故に悩んでいる保護者も多いのでは。そういった保護者にこれからの子育ての一助に必ずなる価値ある提言書である。

- ・今後の課題としては、これをいかに保護者に届けることができるかだと思う。教育委員会としても協力していきたい。皆さんでもその方法について考えていただきたい。
- ・これからも皆さんのお力をお借りすることが多いと思いますが、よろしくお願ひします。

4 委員及び職員の自己紹介

委員（8人）、社会教育課職員（4人）の順で、ひとりずつ自己紹介を行った。

5 議長及び副議長の選出

立候補者はいずれも無かった。推薦を募ったところ、委員から「田代委員を議長に、萩原委員を副議長に」との声があった。その旨について審議を行い、満場一致で承認された。推薦された両氏からも承諾を得た。

6 正副議長あいさつ

○田代保廣議長

- ・コロナ禍で活動しにくい状況であるが、精一杯やっていきたいので、ご協力をお願いしたい。
- ・75歳なのでインターネットでワクチン接種の予約をした日、初倉公民館に用事で行ったところ、大勢の人がいたので聞いてみたところ、ワクチン接種の予約をしたい人達だった。その日は200人来たという。私達の年代はパソコンができないの境目であり、デジタルデバイトの課題がある。
- ・私の仕事のキャリアコンサルタントのなかで大事にしているのは、リスニング・積極的な傾聴・話しを聞く、共感・よりそう、褒める、この3点を大事にしている。
- ・皆さんと作った報告書にある人を育てるとか支援するとかは共通の土台であるをつくづく思った。この報告書をいかに普及させるか、アンバサダーになっていきたい。今後の活動の主なものになると思っている。よろしくお願ひします。

○萩原副議長

- ・何年か前に退職してからは、やりたいことをやってみようと気持ちでいる。
- ・社会教育委員の仕事はいろいろな経験をされてきた方達のいろいろなお話しを聞けて、私自身の世界が広がったような気がする。とても楽しいなと思ひながら、ここに参加させてもらっている。
- ・2年間、微力ではあるが皆さんと一緒に田代議長の言うフットワークのいい、活動する社会教育委員を目指していけたらいいと思っている。よろしくお願ひします。

7 議題

(1) 令和3年度社会教育課主要事業について

資料3（「島田市教育の概要」から抜粋）を基に、3係順に説明を行った。

- ・社会教育係（伊藤）
- ・青少年係（杉本）
- ・文化係（新聞）

※委員からの意見等

- ・議題となっているが、既に決まっている事柄なら意見を言う余地はあるか。
- 今年度の計画について資料に示させていただいた。議論していただくというより

も知っていただくために説明を行った。

→事業の細かいことまで決まっていない部分については、要望をお聞かせください。

- ・社会教育法第17条には、職務の中で助言を行うことができるとあるので。

→助言をいただきたい。

(以後質疑無し)

(2) 各種委員委員の選任について

資料4により、事務局が説明した。

- ・県社教連、中部社教連の役員に田代議長が就任予定。総会により承認される。
- ・民生児童委員推薦会。議長充て職で引き続き田代議長。
- ・平和祈念事業実行委員会委員は、実行委員会の見直しにより選出無し、と説明した。

(3) 今年度の委員活動（定例会等）について

資料5により、事務局が説明した。

- ・年6回の会議の開催、県・中部地区等社会教育委員連絡協議会関係（見込）の全員の委員に関係する箇所、教育委員との懇談会、基礎研修及び社会教育課の行事について説明した。

→近隣の社会教育委員の会議も昼間開催が多い、職員の働き方改革の面からも昼間と夜間の両方の開催としていきたい、ご理解いただきたい（議長）

- ・質疑なし

(4) 今年度の具体的な活動について

資料6について、事務局が説明した。

- ・保護者に届ける、周知する前に、まずは関係機関の職員等に判ってもらうように出向いていく。
- ・そのうえで保護者に説明したいが、今年度に入り込むことは難しいので、今年度は関係機関への周知活動を行い、来年度の計画に入れてもらえるための活動としたい。
- ・少人数、小グループの単位でいいので、社会教育課主催事業での周知を行いたい。
- ・周知方法は、プロジェクターを利用した資料を提示しながら実施する。
- ・一方で、今後の教育員会の諮問も見据え、社会教育の課題に何があるのか、現場の話しを聞きに行くことも行ったらどうか。
- ・社会教育課として、関係機関への報告書の配布等を行っていく。

【以下、協議】

- ・関係機関の皆さんにまずは周知していく。その上で、保護者の会合で説明する。皆さんの活動領域の中で、できるところがあればやっていただきたい。私も初倉小、初倉中の学校運営協議会の委員をやっているの、計画が決まっていなければ校長にお願いしてみる。また、配布資料を作っているなかで、パワーポイントとしては細かすぎるかなと意見があり、これは保護者への配布資料とし、パワーポイントで説明するものは簡略化したものにしたい。そのパワーポイントは事務局で現在作成してくれている。（議長）
- ・提案として、広く周知するためには、FMしまだの「まちの元気人」のコーナー

があるので、それに議長に出演してもらいPRしていただきたい。(Y委員)

→FMしまだに依頼する。

- ・執筆者の気持ち、行間の部分が私達には判らないので聞きたい。模範説明してもらい、想いを確認した上で他の委員も説明に出向いたらどうか。(議長)
- ・保護者に知ってもらうには保護者会や講演会は難しい。告知し希望者だけでもいい、狭い会場でもいいのでやっていきたい。良かったと参加者の口コミで広げることができれば。小さな会場、集団でやるほうが説明しやすい。青少年系の事業や講座の中で短時間でいいのでお知らせできれば。課内での連携を深めない他との連携も取れない。西田委員が取り組んでいるのは福祉と教育のコラボである。社会教育課には縦割りを打ち破ることをやってほしい。厚生労働省では、地域共生社会づくりを進めている。今まで縦割りでやってきたことを地域に関わることは横でつなげて一つにしてやっていくほうが、より効率的であると考え、動き始めている。ぜひ島田市でも。(M委員)
- ・小さな集団に働き掛けるのはいいと思う。委員も自分の職場でぜひ活動してもらえれば。事務局には社会教育事業のなかで機会を作ってほしい。(議長)
- ・M委員の意見に大賛成。社会教育委員の活動について、2年間どんな活動していくのか、報告書を広めることが主体となるのか。テーマについても、資料の2番目に出てきたので、並行して行うのか。(N委員)
- ・私自身は普及啓発活動が主なものと考えている。教育委員会から諮問があるか分からないが。(議長)
- ・5年間かけて作成してもらった報告書の広報活動は大変大きいものと思っている。新たなテーマを依頼するよりも、まず広報活動に目途がつくまで新たな諮問は必要ないと考えている。他の教育委員と協議するが、個人的にはそう思う。また、ペアレントサポーターさんにお話しするなかで、0歳児を持つ母親講座等保護者に対して関わりができてくる。家庭教育学級にもペアサポさんは関わっているの、学校の保護者にも関わるができる。縦割りや課内連携は心配されなくてもできると思う。社会教育委員の皆さんが積極的に考えて行動していただくことが大事だと思う。以前、社会教育委員の皆さんが社会教育課の事業を仕分けしてくれた。やる必要がない事業、充実した方がいい事業と1年間かけて行ってくれた。これも社会教育委員の発案で行ったものであり、皆さんが必要と思えば教育委員会からの諮問がなくてもいいはず。昼間会議を開催するなら、例えば、公民館で会議を行い、協議する内容だけでなく、見学と公民館活動の意見交換を行うなどあっていいと思う。教育委員会も施設訪問したり、必要があれば幼稚園や子ども園に訪問している。自主的な活動として大いにやっていただければ。皆さんの総意としてならできると思う。(教育長)
- ・昼間会議ができることには、会場を利用して管理運営とか事業の見学ができるという発想もあった。N委員も県社会教育委員を今までされていて現場視察によく行ったそうだ。私も民生委員や行政相談員として現場へ行きいろいろと勉強させてもらった経験がある。そういった意味で現場視察を資料に入れた経緯がある。(議長)
- ・未就学児や小学生の辺りは得意な分野であって、いろいろなところで話しをさせ

てもらったことが報告書に記載されているので、ペアレントサポーターにも理解してもらえらると思う。中高生編はなかなかデリケートでペアレントサポーターが関わるにしても勉強が必要かなと思う。

ペアレントサポーターもいろいろな勉強をした上で保護者の前に立ってお話ししている。親学講座も、家庭教育学級のファシリテーターをするにしても、私達が保護者に対してどのような言葉を使ったら届くのか常に考えながら話しをしている。話し方によっては上から目線として聞かれてしまう可能性があり、保護者に耳を塞がれないように気をつけながらお話しするように、もう少し話す内容を検討する必要があるのでは。

本年度説明するのは難しいのでは。こういったものがあるよとたくさん配ってくださること、お知らせすることはすぐにでもできると思う。(S委員)

- ・ S委員が言ったように、上から目線になること、保護者の前に立ったときに、こうしたほうがいいよ、このときはこうしようねとなることに対して自分も警戒している。私たちもお母さんと同じで苦しいよ、大変なことを分っているよと同じ立場で伝えていくことが大切だと報告書の内容を書きながら思った。全部伝えることは無理なので、こんなふうにしたら私の場合良かったよ、こんなことを考えるとお母さんらしくなると思うよという感じで伝えていく、必要だと思ったら読んでくれると思う。言い方によっては、それは分っているよとなるので、気を付ける点かなと思う。(H委員)
- ・ 各委員が持っているスキルのなかで、ここは話せるというところを出し合いながら協議していく必要があると思う。(S委員)
- ・ 小さいグループでの話し合いは大切であり、私はこうだったと保護者から良い意見が出たら、良いアイデアとして報告書に付け加えていけばいいと思う。子育ての達成感も保護者にはあると思うし、2年間の活動で中身ももっと充実してくるのでは。(H委員)
- ・ 報告書そのものを変えることはないと思うが、普及資料はいいものに変えていくことはいいことだと思う。家庭教育のつながるシートも小さいグループで話し合い、正解を出さない方法だと思う。(議長)
- ・ 今、H委員が発言されたことは重要だと思う。ただ、履歴をしっかりとっておいたほうがいい。初版、改訂版と言う形で。最後の版しか残らないのはまずい。(K委員)
- ・ 質問で、子育てが始まったばかりのお母さんたちは乳幼児・未就学児編だけ説明するのか、中学生の保護者には乳幼児編は省くのか、どのように配布するのか。(A委員)
- ・ M委員が前に発言されたことがヒントになっていて、今の乳幼児や未就学児もいずれは小学生、中学生になる。だから、今のうちに高校生までのものを聞いてもらってもいいのでは。(議長)
- ・ 要点は乳幼児に絞っても、その先にこういったことがあるよねと、この辺りを目指しながら子育てしようねと先を見通す形でお話しできればいいのでは。中学生のお母さんであれば、子供の時どうだったと振り返ってもらえればいいのでは。説明するときに臨機応変に対応できれば。(S委員)
- ・ 老人クラブ、お年寄りたちに向けての普及もしたほうがいい。家庭教育なのでお

年寄りが外れていて当事者だけというのはおかしい。(Y委員)

- ・いろいろな意見をいただいた。取り入れるべきなものを取り入れていきたい。概ねこの方向でいきたい。その都度変えていくこともあるとご承知いただきたい。先行すべきことは先行し、新しいことは取り入れるとし、その都度皆さんに連絡し、場合によってはそこへ出向いていくお願いもさせていただく。(議長)
- ・6月1日に保育所・子ども園の園長会があるので、最初の取り組みとして、出向いて説明するということよろしいか。(事務局)

→田代議長、鈴木委員、萩原副議長で対応していただく。

- ・内容を説明することよりも、こういうのがあるという説明をしていただいたほうがいいのでは。この報告書のことを春風秋霜に書いた。興味を持ってくれる校長もいると思うし、低学年の先生方はお便りを書くときに、この内容を参考に書いてくれることもあると思う。学級だよりや学年だよりのなかに内容が活かされればありがたい。PRは学校教育課から少し働きかけをしてもらえれば。(教育長)

8 その他

- ・次回日程は、候補日を事務局でお諮りし調整させていただく。

9 閉会